ひのと賞

『風の歌を聴け』村上 春樹

外国語学部英米学科　2年
加賀見　陸

『ノルウェイの森』や『1Q84』などで知られる村上春樹。彼の作品は世界中で読まれ、その独特な世界観に多くの人が魅了されている。

私が興味を持った作品が筆者のデビュー作である『風の歌を聴け』である。

内容は、1970 年の夏、主人公である大学生の「僕」は友人の「鼠」とジェイズ・バーというバーで金持ちの悪口や本を読むことについてビールを飲みながら語り合う。

ある日、「僕」はバーの洗面所に倒れていた女の子を介抱し、家まで連れて帰る。

その子の年齢は、20 歳であった。ただ、彼女には大きな特徴があった。それは左手の小指が無かった。

主人公は彼女や過去に付き合った女性たちとの回想をはさみながら、「僕」と鼠の一夏が過ぎていくという内容だ。

また、小説の中に登場する音楽も大変魅力的である。特に、ラジオから流れるビーチボーイズの『カリフォルニア・ガール』は私のお気に入りの一曲になった。

私がこの小説を初めて読んだ時、とにかく文体がおしゃれで読みやすいという点と、それまで私が読んだ日本文学とは違い、まるでジャズを聴いているかのように非常に軽やかに物語が進んでいく展開に魅了され、本書の虜になった。

この小説は、その年の群像新人文学賞を受賞し、更に芥川賞の候補にまで選ばれている。

しかし、文壇たちの中では受け入れられなかったという。この作品は芥川賞候補まで行くものの、審査員たちからのコメントは辛辣なものもあった。ノーベル文学賞を受賞した大江健三郎は本作を「アメリカの小説を真似て、それが作者の訓練になっていなければ作者にも読者にも役に立たないだろう」と述べている。

しかし、私は、その要素こそ、筆者が世界中の人々を魅了するきっかけになったのだと思える。同時に本書が日本の文学界に新たな息吹を吹かせたのだと考える。

村上春樹をまだ読んだことがない人にこそ、この小説を手に取ってもらいたいと思う。